

議事録

件名	第14回（平成29年度第4回）外傷等動向調査委員会	
日時	平成30年2月2日（金）18時30分～19時15分	
場所	市役所303会議室	
出席者	委員	（委員長）足達 寿 浅倉 敏明 山下 寿 橋本 俊之 内藤 美智子
	事務局	江原主幹、松本主査、末安（安全安心推進課） 吉田次長、西村補佐、小野（総務医薬課）
欠席者	井上 謙介委員（代理 境次長）	
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 報告事項 （1）再認証取得のための現地審査に向けた今後の主なスケジュールについて 3. 協議事項 （1）事前指導講評への対応について （2）平成29年度久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査結果の活用について 4. その他 5. 閉会 	
〈 議 事 概 要 〉		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から開会宣言 ・傍聴確認 （傍聴希望者なし） 2. 報告事項 （1）再認証取得のための現地審査に向けた今後の主なスケジュールについて <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に沿って報告 （質疑応答） ・なし 3. 協議事項 （1）事前指導講評への対応について <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に沿って説明 （質疑応答） 		

<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査員から質問をいただいた件だと思うが、0～9 歳、70～79 歳及び 80～89 歳までの年齢層で溺死・溺水が一番多いことで、乳幼児や高齢者の溺死・溺水が多いことを言われ、なぜそれを重点課題として設定しなかったのかと指摘を受けた。
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なことだが、溺水によって亡くなったのが溺死だと思うが、標準的にこのような「溺死・溺水」という原因と結果を併記する使い方をするのか。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健所から人口動態調査を毎月国へ報告しているが、その中に、年齢や性別、死因などの項目があって、さらに死因の中でも複数の種類分けがなされており、その中で決められている。 <p>今回の指摘を受けて、それらの死因が多いのはどういった原因があるのかを追究して、保健所から何らか提出できないかという相談をうけたが、それらの死因の詳細まで調べる場合は、人口動態調査の目的外利用になるので、現在厚生労働省へ相談しているところである。</p>
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ たとえば、入水自殺などは、自殺にいれて、溺死・溺水にはいれていないのか。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 死亡診断書の書き方次第だと思われる。
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常死亡診断書には、死因を書くので自殺とは書かず、溺れて死んだのであれば溺死と書くが、そのところはどのような区別の仕方になっているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口動態調査の流れとしては、まず市民課に死亡の届出がなされて、人口動態調査の死亡票という調査票が作られます。それをシステム的に取りまとめたものを保健所からオンラインのシステムを使って国へ報告するという流れになっています。実際、死亡票の作り方というのは実務的に保健所では携わっていないため、詳しい所は分かりませんが、市民課での死因の決め方というものがあつた結果、溺死・溺水もしくは自殺といった区分けがなされて報告があつていると考えています。
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 死亡診断書を見れば自殺なのか、事故死なのかは分かる。何らか明確に区分けをしていればいいと思う。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ たとえば、不慮の事故で溺死した方と病気によってお風呂でそのまま亡くなった方など、原因よつての統計の取り方はできるか。そのような区分けができるのであれば対策を考えることができるが、それらが結果でまとめられているとどういふ対策をとるべきか難しい。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳しい内容のデータはあるが、それを公表するには厚生労働省の許可を得る必要があるので、その手続きをしていきたい。

委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・ その元々のデータは久留米市がもっているのか。内訳を知りたい。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・ データを利用するには厚生労働省からの許可を得ないといけない。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省からの返事はいつぐらいにもらえそうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 申請を出してから、審査を経て許可ができるまでが2、3ヶ月かかると言われています。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏の本審査間に合えばいいが、既に申請はしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在まだ申請はしていません。早急に手続きを進めていきたいと考えています。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査員の方がなぜこの点を指摘されたかという点、久留米市には筑後川が流れており、その筑後川で亡くなっているのではないかと思われていたことによるものです。そこで何らかの対策をしないとイケないのでは思われて、本審査でも聞かれるかもしれないということでした。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本審査までにはきちんとデータを整理しておかないといけないのでは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのため、現在保健所にデータを集めてもらっているところです。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・ 29年度1年間のデータは精査中であるが、速報値では、ここでいう溺水や窒息は、救急の分野でいくと一般負傷という種別に入っている。その中でお風呂の中で亡くなっていたり、沈んであったという溺水の方は、去年1年間でも約23件ぐらいである。すべてが60歳以上の方で、件数的には久留米市で年間1万4千件のうちの0.1パーセントぐらいではある。しかし、初診時の診断では、死亡、重症、中等症状、軽症と判断していくが、この23人の中で16名が死亡、3名が重症、3名が中等症状と件数は少ないが重症率が高いものになっている。俗に言うプールで溺れたという事例は久留米市で年間7件程度となっている。ものを喉につめたという窒息の方は、去年1年間で約21件で、新生児が1人、18歳以上64歳までの成人が4人、65歳以上が16人である。自宅内での発生は9件で、あとの12件は福祉施設や老人ホームでの発生となっている。これも初診時で死亡が2件、重症が8件、中等症状が3件となっており、溺水と同じように少ないが、重症度が高いものになっている。したがって、速報値では件数的には少ないが非常に重症率が高いという分析ができています。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料にもあるように重点課題として、自殺と交通安全の対策をやってきたが、本審査がある7月までにデータの収集だけでなく対策まで考えないといけないの

	か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心の取り組みと考えると対策まで考えていないといけませんが、国際認証については、データの吟味ができていないので、現状において調査をすることと、市や医師会でどういう取り組みを行っているかを確認させていただいて、そこまですべて本審査をむかえれば、その現状の説明をすることになると思われれます。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・そんな生半可なことではいけない。本審査まではきちんと準備しておかないといけない。早急に厚労省に申請をし、データの分析を行っていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み自体をしないということではなく、重点取り組み分野や項目をあげているので、そこに入れる入れないという議論はできないと考えています。データの分析を先に行う必要があると考えています。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・あと約6ヶ月でできるだけのことをしていただきたい。次の委員会では、進捗状況を教えていただきたい。 <p>事前指導の際、人数やパーセンテージについて聞かれたのもこの資料であったか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。プレゼン資料の中に件数をいれていなかったのも、次回はきちんとそこを記載したいと考えています。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は2007年から2011年の積算ということだが少し古いのでは。これより新しいものはないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本番は新しいものを使用します。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・データの順位は変わっていないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど変わっていません。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・審査での質疑は全て委員長が回答するのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・答えることができる人が答えるということになっている。
	<p>(2) 平成29年度久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査結果の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に沿って報告
	<p>(質疑応答)</p>
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査を年齢別で分けてもらったというのはよかったと思うが、これらから見えてくる課題というのは何かあったか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各対策委員会で同じデータをもって分析・検討を始めていただいているところです。この外傷等動向調査委員会では委員の皆さまが特に気になった点について、ご意見をいただき、それを各対策委員会につないで検討していただこうと考えています。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・できるかどうかの要望だが、たとえば17歳以下で怪我をした場所を聞いており、回答に学校とあるが、どこの校区かなどは分かるのか。公表するのはデリケートだとは思いますが、そこを踏まえて対策を検討したりできないか。また、事故に遭いそうになったのが、登下校中だったということについては、それも校区で見て危ない所はどこなのかといった対策に結び付けられるような分析の仕方をやってもらったほうが、取り組みやすいのではないか。この中を見ていたら認知度という項目があるが、どこの地域の認知度が高いのか低いのかというのが分かった上であれば、この地域は認知度が低いので取り組みを行うなどもできる。対策を取りやすいような見方で見ていくのもひとつの手ではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・クロス集計については行っているので詳細な内容がでてきたらまたお知らせしたいと考えています。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの年齢区分のなかに同じ質問項目があるが、それをデータ化しているのにも関わらず横向きの棒グラフもあれば、帯グラフもあるような気がする。何か意味があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特段意味はありません。現在も作業中ですが、早急に作ってもらった状況です。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフが非常に分かりづらい。線を引いたりするなど工夫してもらっているが、余計見づらくしている。字が小さくて何を書いているのか分からないものもある。先ほどの質問と重複するが、帯グラフと棒グラフの使い分けが分からない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・帯グラフは、選択肢をひとつ選ぶもの、棒グラフは、選択肢を複数選ぶもの、という使い分けをしています。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の虐待の件であるが、小児の虐待の芽を摘み取る意味でもこども子育てサポートセンターができていると思うが、そこの協力や連携などは考えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本審査にむけては、小児の虐待について、組織を改正してこのような体制を整えたということは取り組みとして入れていきたいと考えています。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査に関する協議資料の内容には、先日の事前指導の指摘を盛り込んでいるのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これは各対策委員会と連携して作った調査項目で、事前指導の前の8月にやった調査であるため、反映していません。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の事前指導の際にはいろいろ言われたが、その対応はどのようにしているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会でこの調査の分析とそれを踏まえた見直し、また、助言を踏まえた見直しの2本立てで検討していただいているところです。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の委員会ของときには、すべてデータが揃うということによろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それらを踏まえたところでの取り組みの見直しを対策委員会で検討し、それをもって本審査をうけるということになります。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の質問で、認知症サポーターの認知度があるが、久留米医師会は一生懸命取り組んでいるところではあるが非常に認知度が低い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この結果は我々にとってはショックな内容と感じています。高齢者の方への質問で別の内容でも認知度が低い内容のものもありました。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフコミュニティの取り組みでいろんなことに対応して、長い目でみたら改善策を講じていかないといけない。認知症サポーターであれば、どうやって市民の方々に理解していただくか対策を講じるような前向きな検討が必要である。かなり一生懸命データを集めておられるので今後の対策を重点的に取り組んでいただきたい。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・対策を練るのであれば、医療機関の人が関わっていかないと対策はできないと思う。医学的な知識がないところで対策を練っても結びつかない。なかなか皆さんお忙しいと思うので入られるのは難しいと思うが、医師だけでなく、保健師や看護師を入れないとなかなか具体的にやれる対策まで結びつかないと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会には看護師やケアマネジャーなどが入っています。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の対策委員会には入っていないということであったと思うが、あそこは絶対に入っていないといけないと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の対策委員会にはケアマネジャーや作業療法士は入っていますが、医師は入っていません。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・助言は出来ると思うが、具体的な施策を出すという段階では、医者が入っていないと難しいと思う。公にするときに医師の名前が入っていないと信用が違ってくるのでは。

委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会の全体会議はないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会の事務局の連携会議は開いていますが、委員全員が集まる会議は今のことはありません。自治体によっては、外傷委員会の委員を含めて全体会議をしていることもあると聞いています。久留米市の場合かなりの人数になるので、正副委員長が集まる会議というのにはあり得ると思いますが開けていない現状です。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長だけ集まる会議があってもよいのではないかと。そうすればいろいろな助言ができるかもしれない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会とも協議し、今後考えていきたいと思います。資料についてのご助言があれば事務局にご連絡いただくようお願いします。
	<p>4. その他</p>
事務局	<p>(連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本審査の日程と時間については、なるべく委員に皆さまに出席いただけるように調整したいと考えているのでぜひともご出席いただきたいと思います。今のところは、7月の終わりから花火大会の前までに行いと考えています。
	<p>5. 閉会</p>